

月山：姥ヶ岳・石跳沢山スキー報告

【山城】 出羽三山・月山

【日程】 2019年12月14日(土)～15日(日)

【メンバー】 CL菊池・会員外1名

【行程】

14日：千葉(わが家)1：30－幕張浜田 SA 車－志津除雪終了地点駐車スペース－電線切り
開きエリア－姥沢駐車場－リフト下登行－リフト上駅－往路を滑走－志津(宿泊)

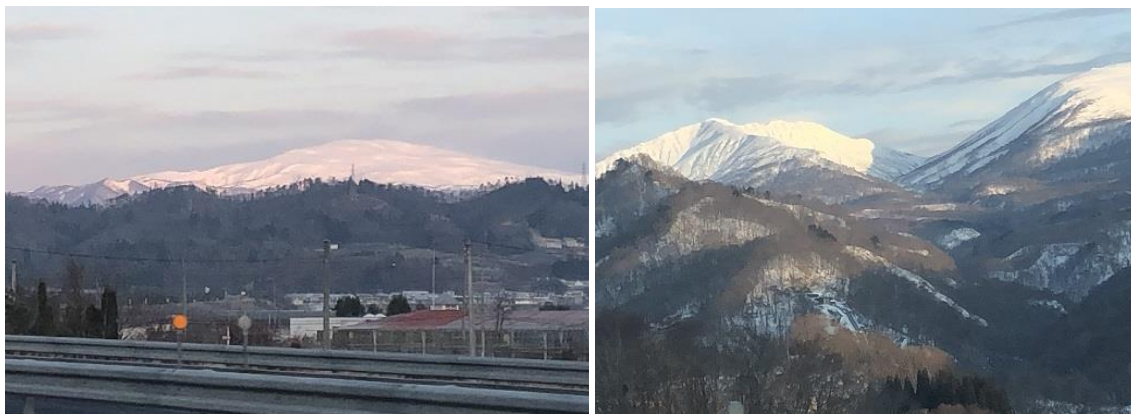
15日：志津除雪終了地点駐車スペース－ネイチャーセンター－石跳沢沿い登山道－標高
1000m 付近で登山道を離れる－姥ヶ岳南西斜面下部を登高－標高 1200m 付近－ブナ
林滑走(標高差 120m)－姥沢駐車場に向けてシール登高－姥沢駐車場－電線切り開きエ
リア・道路を滑走－志津－帰葉



・今シーズンは山々の降雪・積雪不足でなかなか山スキーシーズンインができない状況である。月山のお膝元・志津では12/6一気に積雪が115cmに達したが、その後減少し12/14は50cmほど、不安を抱きながら我が家を1：30に出発、寒河江SAに向かう途中、夜明け直前の真白な月山が浮かび上がり一気にテンションはアップした。寒河江



SA で休憩後、西川町あたりから Morgenroht でピンク色輝く月山山頂直下の広大な大雪城の斜面、残雪期の豪快な滑走が思い出される。月山の左に豪快な湯殿山の急斜面が真白に展開している。今年の4月に初めて石跳沢滑走は経験したが、湯殿山滑走は未経験、今年は是非残雪期にチャレンジしてみよう。



- ・ 志津の除雪終了地点に 7:35 に到着、先行車は 3 台、その後続々と増え、あっという間に駐車スペースは(10 数台可能) 一杯、縦列駐車する車もあった。地元山形・福島・宮城それにわが千葉ナンバー、福島登高会の方々にかげられ、やがてチーム福島の 10 名も到着し賑やかな社交場と化していた。いよいよスタートです。相棒の SA 君、気合が入っていますね。この日の天気予報は風が強く標高 1000m で風速 18m ほどの予想、午前中は晴れベースで気温は高い。午後になり降雪模様となりそう。前日からの新雪が 5~10 cm、風は気にならない。



先行トレースを辿り電線の切り開きのルートを進みます。切り開きの急斜面を登り上げほっと一息、姥沢駐車場の直前からのグレイトビューです。朝日岳・飯豊方面の山々も真白でした。間近に見える湯殿山です。登高・滑走ラインを観察しました。駐車場到着です。まだ風は弱いです。

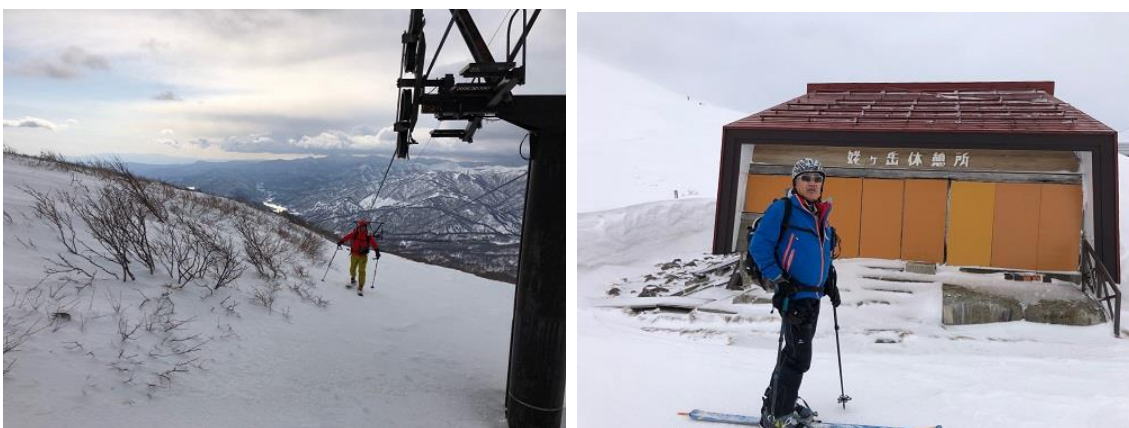


- リフト乗り場に到着。しばし休憩しクトーを装着しました。少し遅れて到着したお二人と談笑、彼らは下からクトーを装着しており、我々同様、クトーの効用を実感しています。山スキーML 愛読者で、小生の報告もご覧になっており光栄です。さあ、リフト下のハイクアップは直登です。11:11、この時点では紺碧の月山ブルーです。一部斜度 30 度を超す急斜面ですが、斜度が緩んでくると姥ヶ岳の大斜面が見えてきます。風が強くなってき

ました。



リフト上駅付近はガリガリで俄かに天気は悪化してきました。1:56 休憩所前で記念撮影、15m は楽に越す強風で、風が避けられる場所を物色しました。



先行した福島登山会の方々は山頂方向にかなり登り上げましたが、強風には勝てず下ってきました。急速に悪化する天気、風が弱い小屋の裏で滑走準備を急ぎました。後続の若者3人組と写真を撮影しあいスタートです。





・ガリガリのリフト下緩斜面から滑りやすい雪質となり、アルペンターンとテレターンを織り交ぜて滑走しました。



リフト乗り場に降り立つ頃（13；02）には降雪模様となっていました。姥沢の駐車場到着時には雨模様、切り開のルートは湿雪で滑りにくく、怪我をしないよう慎重にゆっくり滑走した。チーム福島と同じ温泉宿に宿泊、「ゆきしろ」は料理、おもてなしが素晴らしく、リーズナブルすぎる料金設定、わが会でも定宿にしつつあります。



- ・ 2 日目(15 日)は前日からの降雪が志津で 10 cm、気温は低めで駐車スペースには前日の 2 倍ほどの 30 台が集結した。午後から天気が回復する予報であるが、志津でも風が強い。前日にひき続き福島登高会の他のメンバーにお会いし挨拶した。新潟ナンバーも数台見られた。8:17 の時点でこんな状況で、我々の車も縦列駐車です。まさに人気エリアの山スキーシーズンの幕開けですね！！



- ・ この日はネイチャーセンターから石跳沢沿いの登山ルートを進み湯殿山東斜面に取りつくか、姥沢駐



車場へ南西斜面に行くか現地での状況で決定することとしてスタートした。ネイチャーセンターを過ぎた付近で。まさにネイチャースキーの雰囲気です。まだ積雪が少なく沢は埋まっておらず、格好の被写体になっています。幅の狭い橋を渡る場面が出てきました。スキーを外して慎重に渡ります。今年の 4 月に石跳沢ルートを滑走した時には多量の残雪に覆われており、このような場面は想像できませんでした。カワクルミ沼への登山道ルートに向かう時に渡る橋です。



湯殿山山頂に山スキーで向かう時にはこの橋を渡るようです。今回はこのまま石跳沢に沿って進みます。沢とブナの大木を楽しみながら進みます。ネイチャースキー気分も長くは続きません。再び怖い橋渡りが待っていました。SA 君にスコップで整地してもらい、板とザックを運んでもらってから、恐る恐る渡りました。バランス感覚が鈍っているため、非常に怖い思いをしました。この後もう一回同じような橋があり、このルートを下山するのは・・・、寿命が数年縮まりました。



・標高 1000 m 付近で石跳沢ルートから離れ、姥ヶ岳山頂に向かう南西ブナ林斜面に先行トレースを辿って登って行きます。素晴らしいブナの巨木が次から次へと現れました。



まだ積雪量が少なく、小さな沢地形が多く複雑です。沢地形を通過していよいよ滑走できそうな斜面が出てきました。新雪は深いところで25~30cm、南西斜面ですが降雪直後のためパウダーは勿論温存されており、パウダーランが待ち遠しいでした。



うっすら雪化粧したブナの三姉妹です。標高1200mまでハイクアップしていよいよ待ちに待ったパウダー滑走です。



藪がやや煩わしいため、ターンは数ターンずつですがなかなかの感触でした。標高差120mでしたが初パウダーランとしては満足の本番でした。やはり小生はブナ林パウダーランが好きですね！！小生の満足のブナ林パウダーランです。





姥沢駐車場に向けての標高差 150m のシール登高です。微妙な沢地形が数本ありますが、こんな癒される素晴らしいブナ林です。駐車場の少し上に到達し、しばし行動食休憩としました。

宿で作っていただいた大きなおにぎり 2 個の弁当は 400 円、残った一個を美味しくいただきました。



姥沢駐車場からは、前日と同じルートで下山、打って変わった良い雪質に SA 君は切り開きの急斜面を気持ち良く滑走して行きましたが、小生はゆっくり道路を下り、緩斜面テレ小回りターンを楽しめました。BC というより、これぞ「the 山スキー」と言える所要時間 6 : 55 のロング周回ルートでした。

